

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	22-096	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Association Between Parental Supply of Alcohol and Later Adolescent Alcohol Use in a Highly Permissive Context アルコール寛容性が高い環境における親からのアルコール提供と青少年期の飲酒の関連		
執筆者		
Ksinan AJ, Ksinan Jiskrova G, Hrežová E, Andryšková L, Pikhart H, Bobák M.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2023 Jan;84(1):27-36. doi: 10.15288/jsad.21-00437.		
キーワード		PMID
青少年期、アルコール、親からのアルコール提供、縦断研究		36799671
要旨		
<p>目的: 北米、オーストラリア、西ヨーロッパにおいて青少年期の親からのアルコール提供がその後の飲酒量や頻度の増加等と関連することが報告されるが、アルコール摂取に対する寛容性が一般的に高い中・東欧諸国において、親が青少年にアルコールを提供することによる検討した研究はない。本研究はチェコ共和国における親からのアルコール提供がその後の青少年期の飲酒と関連するかを検討した。</p> <p>方法: 対象は6カ国における前向き縦断出生コホート研究である European Longitudinal Study of Pregnancy and Childhood のチェコ共和国データを抽出し、11歳時点のアルコール提供源に関して有効回答が得られた2,202件より、15歳時点の青少年による自己申告1,264件、小児科医の報告747件を解析対象とした。評価は11歳時の親のアルコール提供状況における15歳時点のアルコール摂取頻度との関連、15歳時のアルコール摂取に対する親と他の提供源（家族、友人、自分で購入、その他の提供源）との相対寄与度（オッズ比（OR）、95%信頼区間（CI））を算出した。</p> <p>結果: 15歳時点での飲酒頻度は、自己申告OR、95%CI: 2.34, 1.19, 4.44、小児科医の診断OR、95%CI: 2.37, 1.02, 5.47であった。親のアルコール提供は、最も強い予測因子であり、自己申告、医師の診断のいずれもアルコールの摂取頻度の高さに関連した。</p> <p>結論: 親のアルコール提供と青少年による有害な飲酒との関連は普遍的なものであり、チェコ共和国におけるアルコールに対する寛容度が高い特徴を持つ文化的背景とは独立して飲酒頻度と関連する可能性が示唆された。</p>		